

第51回

中学生の「税についての作文」

藤沢
税務署長
賞

藤沢市立羽鳥中学校 二年生 木村 結衣花

期待を乗せて

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」授業中、ある男子が読みあげた。しかし、時すでに遅し。その教科書はもう原型すらとどめていない。それでも、私たちは期待されている。これからの日本を担っている。その責任がある。税金に乘せられた、たくさんの人々の想いを背負っているのだ。

私は、税金の必要性がよく分からなかった。そんな中、消費税が五パーセントから八パーセントに上がった時のショックといったら、言葉に表せない程だった。でも、今はその必要性が分かってきた気がする。

私の通っていた小学校は、とにかく生徒数が多かった。だから、教室数もギリギリだった。案の定、二年生になった時、ついに教室が足りなくなり、みんなの大好きだったランチルームがなくなって教室として使われるようになってしまったのだ。とても悲しかった。それでも、何年か後になって、また教室が足りないという話が出た。もう、大好きな教室がなくなってしまうのは嫌だった。でも、今回は違った。プレハブ校舎を建て

るという。これにはみんな大喜び。完成を心待ちにしていた。私もその中の一人ではあったけれど、一つだけ疑問を抱いた。そのお金はどこから出るのか。気になったので、家に帰って母に聞いてみた。すると「それは税金だよ」という答えが返ってきた。この時、初めて税金のありがたみを感じた。

それは、今通っている中学校も同じだった。いつも、私を支えて座らせてくれている椅子も、いつも教科書を広げ、シャープペンシルが転がり、私と向き合ってくれている机も、なにより、私たちを包みこんでくれる校舎も、全てが税によるものだ。私の座るこの椅子は、まだ見ぬ誰かからのメッセージが込められているものなのかもしれない。私が使うこの机は、目の前のあなたからの期待が詰まったものなのかもしれない。こうして、税は人と人をつないでいくのだと痛感した。

私たちは税によって今日を生きている。そのことを忘れてはならない。だから、お互いがお互いへの期待を税に乘せて、お互いがそれに感謝する。そうやって、気持ちよく税を納められる、そんな未来に期待を込めて、明日からも税を納めたいと思う。

藤沢
税務署長
賞

茅ヶ崎市立松浪中学校 三年生 杉本 羽南

納税で未来は変わる

私が税金について興味を持つようになったのは市内にある文化会館の改修工事がきっかけでした。小さなころから一年おきに参加し続けているバレエの発表会が今年はここで開けないとのことでした。残念な気持ちでいっぱいでしたが、開館して37年が経過し耐震性不足や施設の機能低下や老朽化が理由なのでした。かたがたなことなのですが、その費用が28億2600万円という大金で、しかもそれを税金で全てまかなうというのだから印象深く残っていました。

思えば私たちの身の回りには公共物やサービスであふれています。学校、図書館、水道、ゴミ処理場などありとあらゆる生活に必要なものは税金によってまかなわれているということです。公共物やサービスのどれかが不足しても生活が不便になります。税金が私たちの生活をより良く豊かにしてくれていることは確かです。その一方で納税をしなかったり、これからされる予定の消費税増税をよく思わない人も多いらしいです。日本の財政は今、歳出が税収を上回ってしまうという深刻な赤字状態が続いています。これらは私たち中学生をはじめ将来の国民に大きな負担になるということで今から心配でなりません。

北欧の国々の多くは、出産から教育、医療費、葬儀に至るまで税金によって国が負担してくれるのだそう

です。特に、デンマークでは所得のおよそ55%が何らかの税金として徴収されているようです。消費税についてはなんと25%！それでもデンマークは「国民幸福度ランキング」世界一位です。公共サービスの充実が、国民に安心感を与えているとのこと。日本でも、納めた税金が自分たちにしっかり還元されて、しっかり使われていることがわかるならば、消費税10%になっても国民は喜んで払うはずだと私は思います。先進国内で消費税8%というのは異例の低さらしく、私は公共物やサービスを充実してくれるのなら、さらなる消費税増税も受け入れるべきだと思います。今回税について調べてみて、今度日本はますます少子高齢化が進むのだから、国債に頼った財政はもう限界ということ、これからどうやって税収を増やしていくのか、また歳出をいかに減らしていくのかを考える努力が必要なのだとわかりました。

私が将来納税する立場になった時、身の回りにある公共物やサービスを利用できることに感謝しつつ、気持ち良く納税のできる大人になりたいと思います。まずは来年以降、改修工事の済んだキレイに整備された文化会館の舞台に立てることを、税金に感謝しながらその日を楽しみに待とうと思います。